

博徒ざむらい (1964)

メディア 映画

ジャンル

製作国 日本

色彩 B&W

初公開日 1964/11/14

【解説】

久保栄の同名戯曲を「忍びの者 霧隠才蔵」の高岩肇と「雪崩」の武田敦が脚色し「昨日消えた男」の森一生が監督した。幕末を舞台に、時代に翻弄されるやくざの姿を描く。

甲斐の祐天こと祐天仙之助は、大親分津向の文吉のおかげで男一匹に成長した。しかし賭場を狙う吃安一家の用心棒を仙之助が斬ったことから、文吉と吃安が遠島の身となってしまう。責任を感じた仙之助は一家を盛り上げることに成功するが、島から逃げ帰ってきた吃安と手を組んだ代官宇津美にだまされ、決死の覚悟で横浜に逃げ延びた。甲州屋と出会い商いの道に喜びを見出す仙之助だったが、またもや宇津美に追われ、恩人に迷惑がかかるのをおそれて自首した。そこで彼は新徴組を率いる清河八郎と出会い、釈放されるのだった。

【クレジット】

監督 森一生

企画 宮古とく子
仲野和正

原作 久保栄

脚本 高岩肇
武田敦

撮影 今井ひろし

美術 太田誠一

音楽 塚原哲夫

出演 市川雷蔵
本郷功次郎
坪内ミキ子
芦田伸介
伊藤孝雄
植村謙二郎